

1.3.3.1.3	真菌		
	アスペルギルスなど		
1.3.3.2	病原診断		
1.3.3.2.1	遺伝子診断		
	PCR, バルスフィールド, DNAプローブ, LAMP法など		
1.3.3.2.2	抗原検出法		
1.3.3.2.2.1	ラテックス凝集法		
	溶連菌, クロストリジウム・ディフィシレ, クリプトコッカス, カンジダなど		
1.3.3.2.2.2	免疫クロマト法		
	RSウイルス, インフルエンザウイルス, HIV, アデノウイルス, 肺炎球菌尿中抗原, レジオネラ尿中抗原など		
1.3.3.2.2.3	EIA法		
1.3.3.2.2.4	その他		
	エンドトキシン, $\beta$ -グルカンなど		
1.3.4	皮内反応		
1.3.4.1	ツベルクリン反応		
1.4	化学療法		
1.4.1	化学療法の基礎		
1.4.1.1	選択毒性		
1.4.1.2	抗菌スペクトラム		
1.4.1.3	薬剤の代謝・排泄経路(肝, 腎など)		
	組織移行性, ブレイクポイント, Cmax, T <sub>1/2</sub> , AUC, PK/PD, TDMなど		
1.4.1.4	耐性機序		
1.4.2	抗微生物薬の特徴(有効菌種, 副作用, 相互作用, 併用注意, 禁忌を含む)		
1.4.2.1	抗ウイルス薬		
	抗インフルエンザウイルス薬, 抗HIV薬, 抗ヘルペスウイルス薬, 抗肝炎ウイルス薬など		
1.4.2.2	一般抗菌薬		
	ペニシリン, セフェム, カルバペネム, その他の $\beta$ -ラクタム, マクロライド, ケトライド, テトラサイクリン, アミノグリコシド, キノロン, グリコペプチド, ホスホマイシン, クロラムフェニコール, スルファメトキサゾール・トリメトプリム合剤など		
1.4.2.3	抗結核薬		
1.4.2.4	抗真菌薬		
1.4.2.5	抗寄生虫薬		
1.4.3	特殊病態下の化学療法		
1.4.3.1	新生児/小児		
1.4.3.2	高齢者		
1.4.3.3	妊婦		
1.4.3.4	各種疾患合併		
	肝障害, 腎障害, 血液疾患, 臓器移植, 免疫不全など		
1.4.3.5	術後感染予防		
1.5	化学療法以外の感染症治療・予防		
1.5.1	予防接種(ワクチン)		
1.5.1.1	ウイルス		
	ポリオ, A型肝炎, 風疹, 黄熱, 日本脳炎, 狂犬病, 流行性耳下腺炎, 麻疹, インフルエンザ, B型肝炎, 水痘など		
1.5.1.2	細菌		
	肺炎球菌, ジフテリア, 髄膜炎菌, インフルエンザ菌, 百日咳, 破傷風, BCGなど		
1.5.2	受動免疫, その他		
1.5.2.1	特異抗血清による治療		
	ジフテリア, 破傷風, ガス壊疽, ボツリヌス中毒など		
1.5.2.2	ガンマグロブリン療法		
1.5.2.3	モノクローナル抗体療法		
1.5.2.4	サイトカイン療法		
	G-CSF, インターフェロンなど		
1.5.3	対症療法・全身管理		
	解熱薬, 呼吸管理, 輸液, 切開, 排膿, デブリードマン, 栄養管理など		
1.6	感染症関連法規		
1.6.1	感染症法		
1.6.1.1	各種感染症の分類(1~5類)		
1.6.1.2	各種感染症への対応		
	届出, 治療機関の分類, サーベイランスへの協力		
1.6.2	予防接種法		
1.6.3	食品衛生法		
1.6.4	学校保健法		
1.6.5	その他		
	検疫法		
1.7	院内感染		
1.7.1	院内(病院)感染の定義		
1.7.2	院内(病院)感染の主要病原体		
	RSウイルス, 麻疹ウイルス, インフルエンザウイルス, アデノウイルス, 水痘・帯状疱疹ウイルス, バンコマイシン耐性腸球菌(VRE), メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA), 緑膿菌, クロストリジウム・ディフィシレ, 結核菌, ヒゼンダニ(疥癬)など		
1.7.3	院内感染の予防		
1.7.3.2	スタンダードプリコーション		
1.7.3.3	空気(感染)予防策		
1.7.3.4	飛沫(感染)予防策		
1.7.3.5	接触(感染)予防策		
1.7.4	消毒と滅菌		
1.7.4.1	各種消毒薬の特徴		
1.7.4.2	各種滅菌法		
1.7.5	職業感染とその対応		

1.7.5.1 HIV		
1.7.5.2 肝炎ウイルス(B型, C型)		
2 各論		
2.1 臓器別にみた病態, 診断, および治療		
2.1.1 敗血症		
2.1.2 感染性心内膜炎		
2.1.3 中枢神経系感染症 髄膜炎, 脳炎, 脳膿瘍など		
2.1.4 眼感染症		
2.1.5 耳鼻科感染症 中耳炎, 副鼻腔炎など		
2.1.6 呼吸器感染症 上気道炎, 喉頭蓋炎, 気管支炎, 肺炎, 慢性呼吸器疾患の急性増悪, 肺膿瘍, 胸膜炎, 膿胸など		
2.1.7 肝・胆道系感染症 肝膿瘍, 胆嚢炎, 胆管炎など		
2.1.8 腸管感染症 細菌性食中毒, 旅行者下痢症など		
2.1.9 腹腔内感染症 虫垂炎, 腹膜炎, 腹腔内膿瘍, 骨盤内感染症など		
2.1.10 尿路感染症 膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎など		
2.1.11 男性性器感染症		
2.1.12 女性性器感染症 膣炎, 子宮内膜炎, 付属器炎, カンジダ症など		
2.1.13 性感染症(男性・女性) 淋菌感染症, 性器クラミジア感染症, 性器ヘルペス, 尖圭コンジローマなど		
2.1.14 皮膚軟部組織感染症 壊死性筋膜炎, 肛門周囲膿瘍など		
2.1.15 骨・関節感染症		
2.1.16 術後感染症		
2.2 各病原体別にみた病態, 診断, 治療		
2.2.1 ウイルス感染症		
2.2.1.1 DNAウイルス感染症		
2.2.1.1.1 単純ヘルペスウイルス感染症		
2.2.1.1.2 水痘・帯状疱疹		
2.2.1.1.3 サイトメガロウイルス感染症		
2.2.1.1.4 Epstein-Barr ウイルス感染症 伝染性単核症		
2.2.1.1.5 アデノウイルス感染症		
2.2.1.1.6 パピローマウイルス感染症		
2.2.1.1.7 バルボウイルス感染症 伝染性紅斑		
2.2.1.1.8 痘瘡		
2.2.1.2 +鎖 RNA ウイルス感染症		
2.2.1.2.1 エンテロウイルス感染症		
2.2.1.2.2 コクサッキーウイルス感染症		
2.2.1.2.3 ライノウイルス感染症		
2.2.1.2.4 コロナウイルス感染症 SARS		
2.2.1.2.5 フラビウイルス感染症 日本脳炎, ウエストナイル熱, 黄熱, デング熱		
2.2.1.2.6 風疹		
2.2.1.2.7 HIV感染症		
2.2.1.2.8 HTLV-1 感染症		
2.2.1.3 -鎖 RNA ウイルス感染症		
2.2.1.3.1 インフルエンザ 高病原性鳥インフルエンザを含む		
2.2.1.3.2 麻疹		
2.2.1.3.3 流行性耳下腺炎		
2.2.1.3.4 RSウイルス感染症		
2.2.1.3.5 ヒトメタニューモウイルス感染症		
2.2.1.3.6 狂犬病		
2.2.1.4 ウイルス性肝炎 A型, B型, C型, その他		
2.2.1.5 かぜ症候群		
2.2.1.6 ウイルス性胃腸炎 ノロウイルス, ロタウイルスなど		
2.2.1.7 ウイルス性出血熱 エボラ出血熱, ラッサ熱, マールブルグ熱など		
2.2.2 クラミジア感染症		
2.2.2.1 クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニエ感染症		
2.2.2.2 オウム病		
2.2.2.3 クラミジア・トラコマチス感染症		
2.2.3 リケッチア感染症		
2.2.3.1 つつが虫病		
2.2.3.2 発疹チフス		
2.2.3.3 コクシエラ感染症(0熱)		
2.2.3.4 それ以外のリケッチア感染症		
2.2.4 マイコプラズマ感染症		
2.2.5 一般細菌感染症		
2.2.5.1 グラム陽性球菌感染症		

2.2.5.1.1	A群レンサ球菌感染症		
2.2.5.1.2	緑色レンサ球菌感染症		
2.2.5.1.3	肺炎球菌感染症		
2.2.5.1.4	黄色ブドウ球菌感染症		
2.2.5.1.5	コアグララーゼ陰性ブドウ球菌感染症		
2.2.5.1.6	腸球菌感染症		
2.2.5.2	グラム陽性桿菌感染症		
2.2.5.2.1	ジフテリア		
2.2.5.2.2	ノカルジア症		
2.2.5.2.3	アクチノマイセス症		
2.2.5.2.4	リステリア症		
2.2.5.2.5	炭疽		
2.2.5.3	グラム陰性球菌感染症		
2.2.5.3.1	髄膜炎菌感染症		
2.2.5.3.2	淋菌感染症		
2.2.5.3.3	モラキセラ感染症		
2.2.5.4	グラム陰性桿菌感染症		
2.2.5.4.1	インフルエンザ菌感染症		
2.2.5.4.2	クレブシエラ感染症		
2.2.5.4.3	緑膿菌感染症		
2.2.5.4.4	ブドウ糖非発酵菌感染症 ブルクホルデリア・セバシア, アシネトバクター, ステノトロフォモナス・マルトフィリアなど		
2.2.5.4.5	レジオネラ感染症		
2.2.5.4.6	百日咳		
2.2.5.4.7	大腸菌感染症		
2.2.5.4.8	サルモネラ感染症 腸チフス, パラチフス, サルモネラ食中毒など		
2.2.5.4.9	細菌性赤痢		
2.2.5.4.10	ビブリオ感染症		
2.2.5.4.11	コレラ		
2.2.5.4.12	エルシニア感染症 ペスト		
2.2.5.4.13	カンピロバクター腸炎		
2.2.5.4.14	その他 プロテウス感染症, セラチア感染症, ブルセラ症, 野兔病など		
2.2.5.5	嫌気性菌感染症		
2.2.5.5.1	無芽胞嫌気性菌感染症		
2.2.5.5.2	破傷風		
2.2.5.5.3	ウエルシュ菌感染症		
2.2.5.5.4	ボツリヌス食中毒		
2.2.5.5.5	偽膜性大腸炎		
2.2.6	抗酸菌感染症		
2.2.6.1	結核		
2.2.6.2	非結核性抗酸菌症		
2.2.6.3	ハンセン病		
2.2.7	スピロヘータ感染症		
2.2.7.1	梅毒		
2.2.7.2	ワイル病		
2.2.7.3	その他 ライム病, 回帰熱など		
2.2.8	真菌感染症		
2.2.8.1	カンジダ症		
2.2.8.2	クリプトコッカス症		
2.2.8.3	アスペルギルス症		
2.2.8.4	ムーコル症		
2.2.8.5	ニューモシスチス肺炎		
2.2.8.6	その他 スポロトリウム症, コクシジオイデス症, ヒストプラズマ症など		
2.2.9	原虫疾患		
2.2.9.1	アメーバ赤痢		
2.2.9.2	マラリア		
2.2.9.3	トキソプラズマ症		
2.2.9.4	陰トリコモナス症		
2.2.9.5	その他 カラアザール, トリパノソーマ症, ランブル鞭毛虫症, アカントアメーバ症など		
2.2.10	寄生虫疾患		
2.2.10.1	線虫症 回虫症, アニサキス症, 蟯虫症, フィラリア症, 糞線虫症, 顎口虫症, 線毛虫症など		
2.2.10.2	条虫症		
2.2.10.3	吸虫症 日本住血吸虫症, 肝吸虫症, 横川吸虫症, 肺吸虫症		
2.2.10.4	疥癬		
2.2.11	プリオン病 クロイツフェルト・ヤコブ病(変異型を含む)など		

## 指導者養成研修修了者全国会議について

## 【指導者養成研修】

本研修は全国各地の結核対策の核となる結核専門家を養成することを目的として、1992年から国の委託を受けて結核予防会結核研究所で開催している。対象者は結核対策および診療の分野で相当の経験を有し、将来地域の結核対策指導者としての活動が期待される医師であり、地方自治体及び医療機関から推薦を受けた者である。

## 【ブロック別分布】

ブロック	臨床	行政	その他	合計
北海道	4	2	0	6
東北	5	7	1	13
関東・甲信越	14	20	4	38
東海・北陸	7	4	0	11
近畿	8	8	2	18
中国・四国	4	5	1	10
九州・沖縄	6	7	0	13
合計	48	53	8	109

## 【修了者全国会議】

本研修修了者への最新情報の提供、医療・対策に関する検討(ワークショップ実施)、ネットワーク強化のために、2008年度より全国会議を開催している。ワークショップのテーマは以下のとおりであった。

2008年度：(1)地域における結核対策、(2)ハイリスクグループ対策、  
(3)結核医療提供体制、(4)病原体サーベイランス(分子疫学)

2009年度：(1)結核入院医療について、(2)地域連携体制の構築、  
(3)今後の医療提供体制

2010年度：特定感染症予防指針の改訂：(1)低まん延状況下のスクリーニング、  
(2)都道府県計画における目標設定と対策評価指標、(3)病原体サーベイランスの構築、(4)日本版DOTS戦略の展開、(5)結核医療体制の構築

## 結核療法研究協議会について

日本の結核医療を向上させることを目的として総合的研究をおこなうために、昭和28年に設立された。協議会の研究事項は結核予防行政の進展に寄与するものとされている。平成22年4月現在の参加施設数は151、会員数は393人である。内科会、外科会、細菌科会に分かれて研究事業を実施している。

細菌科会は内科会と協同で5年毎に全国耐性菌調査を行っており、現在第14回が進行中で2007年に収集した3000株以上の感受性検査結果と臨床情報の解析を行っている。現在、結核の全国的な臨床および細菌学的なデータをまとめているのは本協議会のみで、その結果は会員に還元している。

内科会は、①結核再発要因に関する前向き調査、②難治性肺結核に対するLVFXを含む多剤併用療法の臨床的研究を実施しており、外科会は、①肺結核外科症例調査、②原発性膿胸及び続発性膿胸症例に対する外科療法の研究を実施している。